

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2022年 8月 3日

No.2

「郡山車両所の廃止と業務移管について」 提案を受ける

中央本部は本日、「郡山車両所の廃止と業務移管について」提案を受けました。提案された内容は、以下の通りです。

1. 経緯と方向性

郡山車両所は JR 東日本の郡山総合車両センター内で併設車両所として事業運営をしている。現在 JR 東日本は、郡山車両センターの建物老朽化に伴う建替計画や耐震化工事を検討しているが、郡山車両所についても建物の老朽化や、事業運営を継続した工事計画が必要であることから、施工計画を策定する中で代替用地が必要であるとの事由で、JR 貨物会社と JR 東日本会社との間で締結している工場併設および業務の受委託解消を要請された。

検討の結果、郡山車両所を廃止し、郡山車両所で実施してきた空制部品、ユニットブレーキ検修設備を郡山総合鉄道部内に新設し業務を移管する。また、貨車全般検査はその他の車両所に移管する。尚、業務移管する郡山総合鉄道部の既存建物も老朽化が進んでいるため、郡山総合鉄道部内の一部建物も併せて撤去、新設箇所への業務集約を行い、移管される検修棟と合築する。

2. 郡山車両所の概要

郡山車両所は、JR 東日本郡山車両センターの建物、検修設備を借用し、貨車の全般検査を主に施工している。

3. 貨車検査修繕にかかわる検討内容と方針

(1) 貨車全般検査の動向

現在、貨車の保有両数は、輸送体系に対応して緩やかに減少している。郡山車両所以外の輪西・川崎・広島・小倉車両所の施工能力と保有する貨車の全般検査両数を比較したところ業務運営の継続が可能であるため、郡山車両所の貨車全般検査両数を他の車両所に分散させて施工する。

(2) 部品検修の動向

今後コキ100系貨車の車両更新ではユニットブレーキを搭載する可能性が高く、業務量の増加が見込まれる。また、空制部品については、輪西車両所へ入場する車両の検修を継続する必要があること、JR 貨物グループ外へ外部委託を行っている車両所もあり、車両修繕費の改善を図る観点から自社、または自社グループで整備した方が望ましい。よって、空制部品及びユニットブレーキの整備業務を強化する必要がある。

4. 移転地

郡山総合鉄道部

5. 今後のスケジュール

(1) 移管日

2023年3月31日

(2) 貨車全般検査

郡山車両所の貨車全般検査は2022年度内に終了し、移転準備を行う。

(3) ユニットブレーキ、空制部品

郡山総合鉄道部へ業務移管させるため検修機器を調達、設置を進める。また、対象部品を他車両所と循環させるための予備品、循環用コンテナ等の準備を行う。

(4) 郡山総合鉄道部内の駅、営業支店等は、2023年ダイヤ改正前に、新たな建物へ移転を行う。

今回の車両所廃止及び業務移管については、JR 東日本からの正式な工場併設解消及び受委託解消の要請を受けたことによるものです。

中央本部は、「JR 貨物発足以来郡山車両所は、JR 東日本の施策の動向から数度の廃止及び移転の動きがある中で、組合員は必死に職場を守る闘いを展開してきた。優秀な人材と技術力を今後も育てていく施策を進めるべき」と訴えました。

これに対して会社は、職場の想いは理解し、外部委託を解消し本体の業務量を増やしていくことを明らかにして提案を受けました。

中央本部は、職場と仕事と生活を守るために闘ってきた職場組合員の想いに応えるために、今後団体交渉を強化し、組合員の雇用の確保と働き甲斐のある職場をめざして奮闘します。

以上